

平成 30 年度 学校評価報告書

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 生徒の学習意欲を高め、進路実現に応える教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>② 在県外国人の校内支援体制を構築する。</p>	<p>①生徒が主体的、協働的、探求的な学習に取り組めるよう授業改善に取り組む。</p> <p>②在県外国人に対して学習や学校生活の支援体制を整備する。</p>	<p>①2回の研究授業の振り返りとまとめを行う。また、有効的な生徒による授業評価の作成及び活用方法を提案する。</p> <p>①新学習指導要領への円滑な移行に向けた教育課程の検討をすすめる。</p> <p>②在県外国人支援チームにより日常的に在県外国人の情報共有を図り、有効な教育課程や課題の解決を検討・協議し、機動的に取り組み支援体制の構築を図る。</p>	<p>①研究授業において課題の抽出を行い、改善と満足度の改善が図れたか。</p> <p>①新学習指導要領への移行を見据えた教育課程の研究・検討ができたか。</p> <p>②在県外国人支援チームを機動的に運営し、年5回程度の実績報告と支援状況の共有機会を設定できたか。</p>	<p>①「生徒による授業評価」に新たに自由記述欄を設けることで、さらに細かい生徒の意見を把握することができた。</p> <p>②支援チームの会議を5回開催し、取り出し授業等に関する提起を行った。7月に分かりやすい日本語授業の研修会を持ち、全体での理解を深めた。</p>	<p>①アンケートをもとに各教科で授業改善を行う。また、11月の研究授業・研修会で「主体的・対話的で深い学び」について共通理解を深める。</p> <p>②在県生徒の日本語能力の習熟等に関しては依然課題も多く、学校として教育課程やキャリア形成等に、継続的なサポートが必要な状況にある。</p>	<p>在県外国人生徒の指導については、他校で在県外国人特別募集枠を設けている学校との情報交換や連携が必要になってくる。県が主体となるよう校長を通し、意見を述べる必要がある。</p>	<p>①「生徒による授業評価」に自由記述欄を設け、細かい生徒の意見を把握することができた。集計に時間がかかり、報告が遅くなった。</p> <p>①新学習指導要領を見据えた教育課程が検討でき、在県外国人の進路選択にも対応できるものとなった。</p> <p>②在県生徒の課題については学校全体課題として取り組まれるように努力してきたが、生徒自身の取り組みや学校全体での支援体制は不十分である。</p>	<p>今年度はホームルームすべての教科一括で「授業評価」を行っているが、授業内で行えるように時期と方法を検討する。</p> <p>生徒が、幅広く学ぶ姿勢を持つように働きかけることが重要になってくる。</p> <p>②在県生徒の自助努力を期待するだけでなく、日常的な支援体制の質を全ての教科や特別活動等を通じて高めていく必要がある。支援チームや担任だけでなく学校全体での支援を目指す必要がある。</p>
2 生徒指導・支援	<p>基本的な生活習慣の確立と身だしなみの指導を徹底するとともに、生徒一人ひとりの課題に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>①遅刻防止指導や身だしなみの指導等を行い生徒の規範意識の醸成を図るとともに、集団活動を通して社会性の涵養を図る。</p> <p>②課題を抱える生徒の全体的な把握と個別理解を進める。</p>	<p>①基本的な生活習慣の在り方やルールについての共有を図るため、明文化・可視化を進める。</p> <p>①始業式・終業式などの場で基本的な生活習慣の啓発活動を行うことにより、学校外での集団行動でも意識した行動がとれるよう体制を作る。</p> <p>②組織的な教育相談体制を整備するため、年次会等での情報共有の他にコアケース会議を行う。</p> <p>②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。</p>	<p>①前年度と比較して指導対象者を30%減らせたか。</p> <p>①年間を通じて、時間厳守、挨拶励行、服装、言葉遣いやマナーの向上等を啓発し改善を図ることができたか。</p> <p>②適切にケース会議を開くとともに支援の方針を立てることができたか。</p> <p>②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用実績を図れたか。</p>	<p>①日常生活指導、毎月の遅刻指導、1か月ごとの頭髪指導で指導対象生徒は減少した。</p> <p>①集会などで基本的な生活習慣の啓発活動を行い、服装・頭髪指導を日常化し、規範意識を育てることに努めた。</p> <p>②ケース会議、生徒情報交換会(4・7月)を開き、情報の共有を進めることができた。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーの活用により、外部機関との連携を行うことができた。</p>	<p>盗難が頻発しており、貴重品管理の徹底とともに、防犯のための具体的方法の検討が必要である。服装指導・頭髪指導を日常化するために、教職員全体で統一した指導が必要である。</p> <p>不登校傾向の生徒への組織的支援が十分ではなかった。</p> <p>早期に発見し、適切な支援が出来るようとり組む。</p>	<p>規範意識を育てることに対し「決まっているからルールを守れ」という頭ごなしの指導ではなく、「なぜそのルールが必要か」を考えさせる指導が必要である。</p>	<p>①定期的な遅刻指導、頭髪指導により指導対象生徒は学年10名程度に減少した。しかし、教職員の統一した指導が十分ではなかった。また、登下校に関する近隣からの苦情があり、生活全般に関する規範意識を育てる必要がある。盗難が頻発したが、校内巡回より防止できている。</p> <p>②教育相談体制を整備し、支援の必要な生徒に対し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含めたコアケース会議を開催し支援した。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーの活用件数が大幅に増え、外部機関との連携をスムーズに行うことができた。</p>	<p>①遅刻が常習化している生徒への指導は、単に生活習慣の問題だけではなく、教育相談的視点での指導を行う。</p> <p>①年度当初に教員間での指導方針の確認の場を設ける。年間指導計画に登下校を含めたマナー指導期間を設定する。</p> <p>①不登校傾向の生徒の支援が組織的にできるよう、気軽にケース会議を開催することができる環境を整える。</p>

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月22日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	外部の教育力を活用し、「進学を重視した学校」として生徒の進路指導の充実を図る。	①適切な進路情報の提供を行うとともに、体系的な指導体制を構築する。	①特色科目(総合学科)、総合的な学習の時間を利用したキャリア学習のほか、進路講演会(各年次)受験ガイダンス(3年次)等で外部教育力を通して、進路意識を高め、より高次の進路選択をする機会とする。  ①新しい高大接続に向けて、1年次生の意識を向上させる取り組みを行う。	①総合的な学習の時間やLHRにおいて平均10時間以上のキャリア教育と外部化教育力を活用した教育機会を5回実施できたか。 ①校内での実力試験等において、ランクアップが図られ、平均家庭学習時間を延ばすことができたか。 ①新しい高大接続への認識を高めることができたか。	①総合的な学習の時間やLHR等を活用したキャリア教育は各年次単位で計画にしたがって実施している。外部教育力の利用は授業時間の確保との兼ね合いもあり、機会を減らさざるを得なかった。 ①新しい高大接続については認識を高めるための機会を設けている。	①実力試験に関しては、生徒の学力とのミスマッチがみられる。実力試験については抜本的な見直しを行う。 ①3月に向けて外部教育力を利用したガイダンスを計画している。	今後、全学年普通科になり、「進学を重視した学校」を目標にするわけであるが、有名大学に何人入れたかを目標にするような学校になってほしくない。生徒の希望がどれだけ実現できたかを数値目標にすべきである。	①授業時間の確保という課題があったため、年次全体が行事として校外で行う外部教育力利用が難しくなった。代わりに様々な外部ガイダンスの機会をとらえ、生徒に参加を喚起したり、外部から上級学校などの職員を講師としたキャリアガイダンスを実施して対応した。 実力試験については業者変更、内容の見直しを行った。	①進学実績を向上するには、外部教育機関などの利用が一方通行にならないように、特に教科指導との連携を密にする必要がある。 また、生徒自身が主体的にキャリアを考え、実現することを支援するツールの導入または開発が求められていると思う。
4	地域等との協働	学校運営協議会制度の導入に向け、地域との連携・協働を進め、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域貢献活動やボランティア活動等を通して交流活動を推進するとともに、学校の取組について外部への情報発信を活性化させる。	①HPを定期的に更新し、学校の取組を発信するとともに、今年度から導入するコミュニティ・スクールを活用し、外部の意見を聞く。 ①地域清掃活動などを通じて地域貢献活動の充実を図る。 ①清水ヶ丘ケアプラザ・保育園との合同避難訓練を通して地域と連携した取り組みを行う。	①HPの更新を毎月行うことができたか。 ①コミュニティ・スクールにおける提案・作業により具体的な成果をあげることができたか。 ①清掃活動・ボランティア活動への参加数を増やす事ができたか。 ①生徒の防災意識が高まったか。	①行事や学校説明会など、HPを活用し外部に発信ができた。 ①地域貢献デーを年次実施とし全生徒が取り組んだ。部活単位で地域のイベントに参加した ①地域別の帰宅グループで集合し、想定される危険を確認し、注意を喚起できた。	①来年度は、コミュニティ・スクール第1回の開催を年度当初に行う必要がある。 ①一般生徒のボランティアへの意識喚起が必要である。 ①近隣の施設との連携を取る際の細かな打ち合わせなど、通常からの運営の機会持つ。	①地域貢献デーでの活動は一定の成果を上げたが、日常的なボランティアや地域との協働については、活性化を期する必要がある。 ①訓練の状況から見て、発生から集合・確認までの行動は訓練できていると考えられる。今後、避難後の行動を想定した訓練が必要になると思われる。	①コミュニティ・スクールには、年度当初に第1回を開催し学校目標の承認を得る。 ①生徒の委員会活動の活性化策を検討し、ボランティア委員や環境委員、各部活動も巻き込んでの実践活動を計画する。 ①一人ひとりの行動の自覚を通して、今年度より短時間(10分短縮)で集合できるようにする。	
5	学校管理 学校運営	①私費会計の適切な管理、運営を行う。  ②定期テストや入学者選抜の際に事故防止に取り組む。	①帳簿の相互チェックと迅速な処理を心掛け、事故防止に努める。  ②不祥事防止に努め、教職員全員の意識高揚を図る。	②不祥事防止研修や事故防止会議を通じて、教職員一人ひとりが事故を起こさないという強い意識を涵養する。 ②各教科で定期テストの共通化を進め、作問内容の適正化とミスの事前防止に取り組む。	①会計担当者会と適正な会計処理についての研修会を実施することができたか。 ②定期的な自主点検と事故防止会議を実施できたか。 ②適切な作問となっているか。印刷等のミスはなかったか。	①研修会はできなかつたが、中間監査や会計事務調査等の機会に合わせて、注意を行った。  ②教科内点検を強化したことで、その後の訂正は少なくなった。	①年度当初に、研修会の形で会計担当者との打ち合わせの機会を持つ。 ②事故防止会議を利用し、会計執行における自主点検の方法を確認する。前期の成績処理を踏まえ、後期に向けて引き続き事故防止に向けて改善を行う。	働き方改革で多忙化を解消し、事故が起これば風通しの良い職場環境をつくることが重要になってくる。	①スケジュール管理の形で、会計担当者にアドバイスおよび注意点について喚起することができた。PTAの活動など外部の活動に合わせた無理のない執行と、事故を防ぐことができたと考えられる。 ②教科内点検後の訂正は減少したが、締切りまでに入力が完成しない教科があった。また、成績処理シートの未更新や使い方について誤りがあった。	①定期的な点検を年間スケジュールの中に置き、確実な執行を促すとともに、県のマニュアルを参考にして、出納簿の記載を統一し、帳簿の点検を多くの目で行えるようにする。 ②成績処理日程の見直しを行う。成績処理シートや点検方法について周知を図る。